

辻元選挙事務所で奮闘する

人それぞれの参院選

立憲民主党・辻元清美さんの事務所より、「参院選の公示前から応援に来てもらえないか」と打診があり、支部と分会に相談すると快く送り出してくれました。

公示前の6月2日から7月10日約40日間選挙応援してきました。

公示前の活動は立て看板取り付け、ポスター貼り、ビラの折り込み、集会資料の帳合、郵送物の作成、郵便局への持ち込み、駅前での街頭演説やビラまき等、あらゆることをしました。

この期間は人手が足りず、辻元さんを助手席に乗せて3人で街頭演説周りもありました。辻元さんはインカムで喋りながらビラまきをするのですが、近くでビラをまきながらビラを手渡して補充する担当など貴重な経験もありました。



国政選挙は公示、
地方選挙は告示

6月22日の公示日には選挙の7つ道具（事務所の標札、街頭演説時に掲げる標旗、選挙カーに掲示する表示板、拡声機に取

り付ける表示板、街頭演説時に運動員が着ける腕章、選挙カーに乗る運動員が着ける腕章、個人演説会用の表示物）やビラやポスターに貼る証紙が選挙管理委員会より交付されますが、比例区の場合は中央選挙管理委員会の管轄となり東京で交付されます。7つ道具が大阪へ届くまでは選挙運動はできません。



初日は夕方の方の出発式とその後のJR高槻駅北口での街頭演説があり、私は1人で高槻駅北口を占拠していました。しかし標旗と腕章がないのでビラ巻きもできずじまいでした。

場所取りがたいへん！

翌日からは朝7時からビラまきをするために設営・場所取りです。場所取りは演説場所と街宣車を止める場所を確保します。そのためにホテルに泊まり込みになりました。

23日は、三国ヶ丘駅前で、1人で荷降ろししている間に維新の会に場所を取られ、24日は、樟葉駅前行くと維新の会が大勢で占拠しており、連続で維新の会に演説場所を先にとられ悔しい思いをしました。次の日からはさらに早い時間に行くようになりました。朝立ちが終わると2人か3人で数カ所の設営・場所取りをこなしていきます。

昼食はタイミングをみて順番

に行くのですが、辻元さんは各地にお気に入りのうどん屋があるようで、食事時間短縮のためだと思いますが、よくうどんを食べに行っていました。夕立ちが終わると19時頃で、撤収して事務所に戻ると20時をまわっています。街宣車は夕立ちが終わるとすぐに街宣に行き、20時まで街宣行動をして帰ってきます。それから翌日の予定確認をし、ビラ等の準備をして荷物を積み替え、燃料の確認をして終わるのは22時近くです。設営で他の政党とバッティングしたら交渉もして調整もしました。また、辻元さんに絡んでくるオジサンもいて排除もしました。最終日には、不審者と思って注意したら、私服警官で嫌味を言われたこともありました。演説中に熱中症で倒れる聴衆者がいて介護したり、コロナ化でマスクを外せませんので私たちも倒れそうになるなど、ハードな日々でした。



▲ビラ配布する関谷書記次長

選挙中、安倍元総理の痛ましい事件もありましたが、全国比例区で出馬した辻元さんは428,859票で当選し、2021年の衆議院選挙の雪辱を果たしました。国会には辻元さんがいなくてはいけないと、全国の支援があり確定したときは心に響きました。当選したお祝いの打上げでおいしいお酒が飲めました。

（書記次長 関谷 和人）

だんけつ

第364号 2022年9月22日



発行
大阪市港区築港1-12-27
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部
発行責任者 國分仁昭

被爆77周年原水爆禁止世界大会・広島大会

平和への思いを未来につなごう

8月4日から6日にかけて、大阪支部2名、中央執行委員1名で被爆77周年原水爆禁止世界大会・広島大会に参加しました。

広島平和記念公園から県立総合体育館まで1時間余りデモ行進後、開会総会が開催されました。新型コロナウィルス感染の影響で3年ぶりの開催となりましたが約1,200名が参加しました。

今回参加して平和について深く考えさせられる貴重な話をいくつも聞きました。中でも一番心に残ったのは切明千枝子さんのお話しでした。広島に原爆が投下され、命からがら学校へ避難した時、その場にいた生徒は腕から昆布のように皮膚が垂れ下がり、引き摺って歩いていた。

これを見た先生が皮膚を引き千切ってあげた時に、生徒は、「先生有難う。これでちゃんと歩けるようになりました」と言ったという話は衝撃的でした。改めて人の命の大切さ、平和の大切さを強く感じました。

現地で、「今回、みなさんは話を聞きに来られましたが、これからはみなさんが話を伝えてください」の言葉通り、多くの人に呼び掛けていくと共に、自分にできることを精一杯頑張っていきたいと思います。

（執行部 烏野 洋二）



広島大会に参加して

開会総会は新型コロナウィルス感染の影響で3年ぶりの集会となり、金子大会共同実行委員長から「プーチン発言の核兵器使用威嚇は許さない。日本政府、岸田首相には核なき世界の実現のために、核兵器禁止条約に直ちに批准することを強く求めます。」と開会のあいさつがありました。

2日目は核燃料サイクルと高レベル放射性廃棄物の分科会に参加しました。参加者は「核燃料サイクルは破綻しており、使用済み核燃料が増え続けている。まずは原発稼働を断念し、これ以上使用済み核燃料を増やさないと今すべきだ」と訴えました。このように原発稼働には反対しなければなりません。

岸田首相は式典で「核兵器のない世界の実現を努めていく」と言いながら、核兵器禁止条約については触れませんでした。被爆の実相の理解を求めていくのならば、核兵器の非人道性を訴え、国際人道法に従う重要性を語ることが、唯一の戦争被爆国としての日本の責任ではないのでしょうか。これからも反戦・反核・脱原発へ向けて運動していこうと思います。

（書記次長 関谷 和人）